

KFC News

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2022. 7. 17

No. 169

法人本部 〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502
TEL : 078-612-2402 FAX : 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net
デイサービスセンター ハナの会 TEL / FAX : 078-612-2408
グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ TEL : 078-798-5475・4 FAX : 078-798-5476
ハナ介護サービス TEL : (居宅) 078-646-8671 (訪問) 078-646-8670 FAX : 078-612-3052
ふたば国際プラザ TEL : 078-747-0280 FAX : 078-747-0290

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2022 年度総会報告

5月29日、3年ぶりに通常の形式でのKFCの年次総会を開催しました。

当日の配布資料は、HPにアップさせていただきますので、お手隙の際に見ていただければと思います。

昨年(2021)度は、書くのもいやになってきましたが新型コロナウイルス禍が収束せず、窮屈で不安に向き合う事業運営をKFCは強いられました。スタッフやスタッフ家族にも感染者が頻出し、短期間ではありましたがデイサービス事業を休止するなど、事業運営に大きな困難を抱えた1年となりました。

そんな困難な状況を抱えながらも、困窮する留学生や難民家庭に食材や物品を提供する事業を、留学生らの仕事にもつなげる形で実施するなど、困難な状況においても外国人・マイノリティ当事者の力を活かした事業を推進するなどKFCらしい事業に取り組みました。

また秋には、KFCが運営する「ふたば国際プラザ」の入っているふたば学舎、地元商店街を会場にした「ランタン縁日」を、規模を拡大して実施、ふたば学舎会場では、地元イベントがなくなり寂しい状況で暮らす子どもへの遊びや学びの提供となる「親子縁日」を企画、開催し多くの子どもや保護者の参加を得ました。ランタンを使ったKFCによる街の活性化事業は、年々地元根づいてきており、街の魅力あるコンテンツとして育てていきたいと考えています。

また日々の実践活動とは、異なる事業として、笹川平和財団から2年間の委託を受け進めていた「東アジアにおける難民の社会統合に向けた調査研究」事業の報告書を出しました。

報告書には、この間、KFCが力を注いできた第三国定住難民支援の状況や日本に移住した難民当事者からの寄稿、似かよった社会状況を持つ韓国の第三国定住難民受け入れ状況についてなどを取り上げました。今後の日本の難民受け入れがよりよい方向に向かっていくことの一助になればと考えています。

そのようなことを進めていた年度終盤、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻という大きな問題が発生、KFCとして何かできることはないかと考え、今年度に入った4月の毎週日曜日に、ウクライナ問題を知るための連続学習会、ウクライナ避難民の子ども支援に役立ててもらうための募金活動、バザーを開催し、集まった募金とバザー収益43万8218円をUNICEFウクライナ緊急募金に寄付しました。

私たちが進めた「KOBE ウクライナ難民支援活動」は、神戸市、神戸国際コミュニティセンター(KICC)はじめたくさんの団体、大学、個人ボランティアの協力を得て実施しました。この社会は、思いをもって旗をたてれば必ず応えてくれる善意に出会えるのだということを感じられた取り組みでした。あらためて感謝したいと思います。

その後、ウクライナにおける戦争によって日本に避難してきている人たちに対しては、現在、神戸市、KICCと協力しながら神戸市に来たウクライナ避難民への総合的な支援をKFCが担うことになり、大きな取り組みとなっています。

まだまだ新型コロナウイルスによる感染のリスク、物価高による厳しい事業環境、不安定な世界情勢やナシ

ヨナリズムの台頭、その他のリスクも増えていくことによって、私たちKFCの事業にも困難が立ち塞がるかもしれません。

しかし、それでも赤ちゃんから高齢者まで民族や国籍を乗り越えて支えあう事業を進めてきたKFCの事業は、これからより広く社会で求められていくのだと考えます。

幸いなことにKFCの事業の規模も担う人の数も年々、増えています。

私が子どもの時に「釜で炊く米が減ると家が廃れる」という話を母親がしていました。

KFCという「家」は、コロナ禍の中でも毎年、「炊く米」の量を増やせてきています。それは、KFCに「米」を届けしてくれる人々、一緒に「炊いて」くれる人々が増えてきているということです。

KFCという「家」が廃れることなく栄えられるよう、これからも意義ある・意味ある事業をつくっていければと思っています。 (理事長 金 宣 吉)

K F C 帰国者新長田交流会

◆KFC 新長田帰国者交流会の近況

1931年から1945年までの期間中、日本政府の国策により満蒙開拓移民政策が打ち出され、中国の東北地方に約27万人の日本人が開拓民として移住しました。第二次世界大戦が終わった後、日本政府は国内での戦後復興に精一杯で、数多くの開拓民を満洲、内蒙地方にそのまま残し、放置されていました。幸いなことに、日中国交正常化を機に中国に残されていた残留邦人が徐々に帰国でき、ようやく日本での暮らしが始まりました。しかし、彼らは幼い頃から中国人として養育され、日本語はほとんど身につけていなかったため、帰国後も、言語や習慣などにより、困難な生活を送られてきました。特に、現在ではさらに社会

から孤立、高齢化など様々な問題が頻繁に起きています。

K F Cでは、2011年から新長田帰国者交流会を開き、帰国者を対象にして、週に一回日本語学習支援を行っています。私は2022年2月から中国語ができるスタッフとして交流会に加わり、帰国者の方たちの日本語学習や交流活動などをサポートするようになりました。交流会では、健康や介護に関わる知識を日本語の学習の中で学習していただいています。6月にはハナの会の看護師に協力してもらい、認知症予防に関する知識を身につけていただきました。みなさん、大変勉強になったと思います。

また、帰国者の方たちは、毎週火曜日にふたば国際プラザに集まり、広場踊りや太極拳などを踊っています。私も大学時代に太極拳を学びましたが、大学を卒業してから全然練習していなかったため、ほぼ忘れてしまっていました。交流会に加わってから広場踊りにハマってしまい、太極拳も練習し始めて、毎週火曜日を楽しみにしています。K F Cは、こうして交流会の運営に力を入れて、少しでも彼らの日本社会から孤立された孤独感を解消するために努力しています。

今年の春からは、更に活動を多様にするため、ふたば農園の一角に帰国者農園を作り、みんなが一緒に協力してきゅうり、ミニトマト、ゴーヤ、とうがらしなどを植えました。特に安振富さんが自ら近くのスーパーや売り場に行ってミニトマトの芽やきゅうりの芽を買ってきたり、植物の棚を買ったりして帰国者農園のために大変頑張っています。6月の下旬頃からきゅうりの収穫が始まり、まもなくミニトマトもたくさん採れるそうです。これからは、ゴーヤやとうがらしの収穫を楽しみにしています。

(永 良)

日本語プロジェクト

◆KFC日本語プロジェクト企画 事例発表会

5月29日に開催された標記企画で事例発表をしました。発表では、学習者の心理や異文化への適応過程についても説明したので、合わせて報告致します。

語学の学習者は、習得レベルに関わらず誰もが不安を抱き、その不安は男性や内向的な性格の人に大きいと言われます。また、聞き取りよりも話す際に不安は大きく、不安が大きすぎると、新しい語彙の習得など学習にも悪影響を及ぼすことが明らかとなっています。そのため、安心して学習できる環境を支援者が提供することが肝要です。私は、大勢の前で質問する時は、内容を理解できなくても学習者が気まずい思いをしないよう、多様な回答ができる質問をするように心がけています。

次に日本語ボランティアとしての私の悩みや迷いについて3点発表しました。1つ目は目標設定についてです。外国に移住すると私たちはカルチャーショックを体験します。移住前から不安や期待、緊張など様々な心理が生じ、移住先の文化に適応するまで数か月から数年を要すると言われます。私の学習者は、来日後まだ数か月で、日本文化に適応する途上でストレスも高く、かつ働いているため、日本語学習に費やす時間や労力に限りがあり学習目標を設定していません。

次に学習方法についてです。当初はテキストを中心に学習していましたが、体系的に学べるものの、学習者の話す意欲が高まっているか疑問を抱きました。そのため、今は自由な会話を増やし、話したいという意欲を大切に、学習者が話す内容や言葉を自分で考え、発話する時間を増やしています。

最後に、日本語の理解・習得方法についてです。学習者は、単語は理解できても、文章の理解は難しいことがあります。そのような時、学習者は板書された日本語の文章を母語に訳して理解します。私は、学習者が母語を介さず、日本語を日本語のまま理解することができれば、より日本語能力が向上するのではと思っています。

上記の3点についてグループで意見交換し、様々な助言を頂きました。日本語学習だけに焦点を置くのではなく、学習者が楽しく学べることを重視するとよいのではないかと、学習者が日本語学習を始める時に、母語で目標を書いてもらうといいのではないかと、などです。

まだ初心者ですが、今回頂いた助言を大切に、学習者と楽しみながら伴走していきたいと思えます。この度は貴重な発表の機会を頂きありがとうございます。
(戸田 登美子)

多文化子ども共育センター *Moi*

◆新学習支援インターンコーディネーター紹介

中国の大学で機械工学を学んだ後、卒業旅行で家族と訪れた日本を非常に気に入り、2019年4月に神戸製菓専門学校に進学し、パティシエになる勉強をしています。

KFCに関わるようになったのは、学習支援をしていた友達の紹介がきっかけです。

初めて学習支援をする時には、どんなふうに支援や仕事をするのか、自分の考えを子どもに十分に伝えられるか、いろいろな不安があり、自分の能力を非常に心配しました。学習支援を始めて2ヶ月たち、KFCの先生たちから毎週お菓子をいただいたり、非常に信頼されるようになり、だんだん自信がでてきました。毎回毎回新しい発見と成長を感じました。とてもやりがいがあると思います。先生たちに心から感謝します。そして専門学校の授業が終わると子どもたちの素敵な笑顔を見られるので、自分も満足し幸せに感じています。最高の活動です。これからも自分の能力を使って、精一杯頑張りたいと思います。今後も子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。

(呂行健(ろ・こうけん))

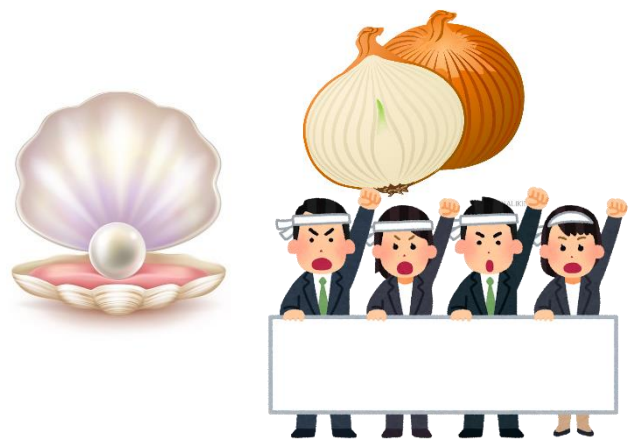
コラム「神戸市に縁の深い onion の語源をたどる～玉ねぎと労働組合、そして真珠のまち神戸に繋がる話?～」

淡路島は玉ねぎで有名ですが、玉ねぎ「onion」の語源をご存じでしょうか。「onion」の語源は、ラテン語の『union』だと言われています。uni-とは「1つの」という意味の接頭語で union は「結合」「組合」「連合」という意味で、玉ねぎは、union=根で結合しているからという説があります。

一方、ラテン語には、別の単語で『unio』という「一粒の大きな真珠」の意味の単語があり、玉ねぎの皮を剥いた後の色形がそれに似ていることから この単語が onion の由来になったという説もあります。

「真珠」と言えば、神戸では真珠産業が盛んです。本格的に始まったのは、1928年に真円真珠の特許が公開され、各地で養殖場が増加してからです。当時、真珠生産の大部分は輸出に向けられており、国際貿易港を備え、真珠の養殖場が多い三重県や四国に近いという地理的条件から、北野町を中心に真珠の加工・流通が発展しました。北野町には、通称「パールストリート」と呼ばれる通りがあり、約220社の真珠関連業者が集まっています。現在でも、神戸は世界で流通する真珠の70%の選別加工を行っており、世界有数の真珠の加工・集積地となっています。(神戸市のサイトより抜粋)

世界も早く淡路の玉ねぎのように結束してほしいとまでは言いませんが、世界中の紛争が早くなくなり、真珠のようにきれいな地球になってほしいです。(S)



◆デイサービスの活動を楽しんでいただけるよう、スタッフ一同頑張ります！

ここ数年の国際レベルでのコロナパンデミックのために、運営もいろいろと困難になっています。

一部の高齢者のデイサービスは閉鎖していたため、ハナの会も結構大変でした。ハナの会は開設を続け、ウイルスの拡散を防ぐため多くの規則ができました。

様々なことが難しかったですが、これまでのところみんなが頑張っていて、いい仕事をみんなで行っていると思います。

今年から少しずつレクリエーション活動を始めることができるようになりました。活動を再開するのは大変でしたが、感染対策をしながら少しずつやっています。今年は、運動会をやりました。参加していた高齢者がとても幸せそうでした。

すべてのレクリエーションなどの活動を通じて、高齢者は楽しい時間を過ごしていると思います。

高齢者が心身ともに忙しく活動しているのもいいですね。

また、高齢者が自分の考えを持ち、想像した通りにクラフト作りをしています。表情のちがう豊かな作品が出来上がります。このように、お年寄りが良い一日を楽しむことができるようなレクリエーションを計画しています。

高齢者とスタッフが本当に楽しく過ごせるように、私自身も楽しくこの仕事できるようにしていきたいです。笑顔が一番大事だと思います。頑張ります。
(塚本 澄子)

◆久しぶりの散歩

五月の下旬ごろ、快晴で気温も暖かくて絶好の散歩日和でしたので、2階のご利用者様に声をかけ、準備をして、車椅子に移乗して頂き職員と一緒に散歩に出かけました。

散歩のコースは、JR 新長田駅の鉄人広場まで行き、そこで鉄人を見ながら職員と楽しく歓談をし、そして次に向かった場所は、国道沿いにきれいなお花が咲いている場所があったので、そこでお花を見ながら昔話(子供時代、戦争を体験したことや日本に来てからいろいろと苦労した話、好きなお花の話、好きなお酒のお話等)を交えながら楽しく歓談をしました。そこから、近くの公園まで行き、公園のベンチに座って過ごしている時に、近くに住んでいる子供たちがはしゃぎながら楽しく遊んでいる姿と一緒に見て過ごし、子供たちの元気な姿を見て、「子供は元気があっていいなあ」と言われたので、そうですねと相槌を打って答えていったことで、笑顔があふれていきました。

散歩からハナへ帰ってきた時に、ご利用者様から笑顔で「ありがとう」と言われたのが今でも印象に残っています。この言葉を聞けただけでも、散歩に行ったら良かったと思っています。

今後も、天気が良く、気温も暖かい日は積極的にご利用者様と一緒に散歩に行くことで、ご利用者様の気持ちも穏やかに落ち着いて過ごして頂くことができるので、散歩に行ったら、少しでも気持ちが落ち込まないよう工夫しながら、いつまでも、元気にご利用者様が生活できるようにしていきたいと思っています。

(2階介護士 森川 幸司)

ふたば国際プラザ

◆生活ガイダンス～分かると楽しい！ごみの分け方クイズ

生活ガイダンス～分かると楽しい！ごみの分け方クイズ～を行いました。

6月11日(土)にふたば国際プラザでごみの分け方に関する生活ガイダンスを行い、日本語教室や教科学習教室・プレスクールに参加している大人と就学前～中学生の子ども15名(出身・ルーツの内訳はミャンマー、タイ、ロシア、タジキスタン、ベトナム)と、支援者9名が参加しました。神戸市環境局の方に講師として来て頂きました。

最初に環境局の方からパワーポイントを使ってごみの分け方と、捨てられたごみがどのように処分されているのかを説明してもらい、後半にごみの種類、絵が書かれたカードを机に置いた用紙の上のそれぞれのごみの欄に分けていくクイズを行い、体験的にごみの分け方を学習しました。クイズ形式にしたことで、支援者も含めてみんなであれこれ考えながら分け方を考えて、記憶に残すことができました。約1時間のガイダンスの最後には、ノベルティとしてうちわとワケトンの塗り絵を頂きました。

今回難しかったのは、前半の説明の部分です。日本に来て年数が浅い参加者の方にとっては理解しにくい部分がありました。講師の方に平易な言葉で話して頂くようにはお願いしていましたが、スピードも速く想像していたより難しい説明になってしまい

「やさしい日本語」の通訳を途中で入れようかと思っただけでしたが、それも急にはできませんでした。個別に対応する時は通訳補助も入れやすいですが、大勢に一斉に実施する今回のようなタイプの生活ガイダンスは言語をどうするか実施上の課題があります。今回は幸い支援者の方々が参加者の横について、要所所で補足をしてきていたので、ある程度は理解が助けられたと思います。次回はあらかじめ通訳者またはやさしい日本語のフォローを行う人をより周到に配置しておこうと思います。やさしい日本語の話し方をもっと講習などで広めることも必要だと感じました。またガイダンスの構成自体、後半のクイズを通じた実践的なものだけでも良かったように感じました。ただ前半の、ごみがどのように処分されていくかという点も伝えたいという講師側の意図も理解できるので、そのバランスが難しいと感じました。

ごみの分け方は、ウクライナ避難民の方々も困っていて質問されることが多いです。ガイダンスは多数への実施と個別実施の両方を行っていますが、今後も必要に応じてトピックを設定し、行っていきます。次回は7月に税金に関するガイダンスを予定しています。(大石 貴之)

◆中国語教室が開講して1年になりました

ふたば国際プラザで中国語教室が始まったのは2021年6月のことでした。この一年間、多くの方々に大変お世話になりました。ふたば国際プラザは、多文化共生社会実現のために中国語教室を通じて中国の言語や歴史、文化を学んだり自由に話したりしながら、地域の住民同士で相互理解を深めることを目指す日本人と外国人の交流・相互理解事業の一環として始めました。

中国語教室は、元々中国語や日本語の両方を使い、中国語の教材を使ってみんなで中国語や中国の文化について勉強していました。最近では中国の歴史を加えて、中国の歴史から中国語や中国文化を学ぶという幅広く中国に関する知識を身につけることを意識して進めています。主な内容としては、「中国語や中国の文化、歴史について」、「中国の言葉、制度、習慣の違いなどについて」、「中国で最近流行っている最新の話題などについて」などの様々なトピックについて自由に意見交換をすることです。

参加者たちは、日本人を始め、ベトナム人、韓国人、中国人などの多様な文化を持つ方々が中国語や中国の歴史・文化を学びに来ています。また、地域の大学の日本人学生や留学生たちにも呼びかけを行い、国際理解教育としても進めています。

これからは、中国の歴史を日本の歴史と、時代順に合わせて、一緒に学んで行きたいと思っています。一方で、中国語や中国の文化・歴史の勉強や中国語の会話練習にもなると思います。しかも、国籍、ルーツ問わずどなたでも参加できるので、「中国語を学びたい」、「中国の文化を知りたい」、「中国の歴史に興味があります」、「中国語で話せるようになりたい」という方々はぜひご参加ください。 (永 良)

◆ウクライナ避難民支援を行っています

(公財)神戸国際コミュニティセンター(KICC)を通して神戸市からの委託を受けて、5月からウクライナ避難民支援に係る相談・支援コーディネート業務を行っています。3月から今に至るまで多くの方々が来神され、衣食住から就労、教育などの手続きや物資支援の調整、同行等を行っています。世帯数が増えてきたため、スタッフとして常勤1名とパート2名が新たに加わり、チームで支援に取り組んでいます。多くの企業や個人の方から支援のお申し出も頂き、物資提供やボランティア活動(主に日本語学習支援)を行って頂いていますが、量的にも内容的にもニーズとかみ合あわないケースは、待って頂いたり保留させて頂いたりしている場合もあります。

避難民の方々には公営住宅の提供のほか、大きく兵庫県と日本財団からの支援金という支援制度があります。兵庫県からの支援金を受けるためには公営住宅に入居しなければなりません。入居が決まってから申請手続きを進めるため時間がかかります。また公営住宅は立地や設備など避難民の方々の希望に沿えないことも多く、検討に時間がかかるケースも多いです。また、日本財団の支援金との併給はできません。日本財団の支援金は、全国から申請が集中しているため受給に何か月もかかります。それから、神戸市の支援対象になるには、もともと神戸市に住んでいる方が身元保証人になり、家族や親戚、友人知人呼び寄せられるに限られます。そうした諸々の状況ゆえに、経済的に困窮したり精神的に不安定になったり、或いは周囲のいろいろな支援者(個人・団体等)の介在により情報や支援内容が錯綜したりと、相当混乱した状況が続いています。しかし基本的には当事者の都合を最優先で考え、当事者ができるだけより良く受益できるように調整に努めています。

また、KFC 独自の取り組みとして、避難民の方々向けの日本語教室も開始し、週2回、10名前後の方がふたば国際プラザに学習に来られています。ボランティアの方のご協力によりウクライナ語のサポートもあります。学習に来られた際には、企業や個人から寄せられた寄付物資を持ち帰って頂いたり、困ったことがあれば相談を受けて手伝ったりしています。今後も多くの方のお力添えを頂くかと思いますが、KFCの培ってきたネットワークや経験を活かして鋭意取り組んでいきますので引き続き宜しくお願いします。 (大石 貴之)

今後の予定

■ふたば国際プラザ

ヒューマンシネマ上映会

7月22日(金) ①14:00~15:50 ②18:00~19:50

「ハッシュパピー (BEASTS OF THE SOUTHERN WILD)」

■「多文化共生」を考える研修会

【日時】(時間はいずれも 13:00-16:15)

第1回 8月18日(木)

【総論～人道的な外国人受け入れを考える～】

第2回 8月22日(月)

【日本語教育と外国にルーツを持つ子どもの教育】

第3回 8月24日(水)

【外国人との共生に向けての課題】

第4回 8月25日(木)【多文化を活かしたまちづくり】